

土砂災害防止法¹

（土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律）

第一條

中文	為達保護國民生命與身體免受土砂災害危害，特予明列土砂災害潛勢區，齊備該地區警戒避難機制，並針對重大土砂災害潛勢區，限制從事特定之開發行為，訂定規範該地區範圍內之建築物結構應具備之相關措施，並在發生土砂災害危險時，提供避難之資訊等，期能藉以推動防止土砂災害之對策，達成確保公共福祉之目的，特制定本法。
原文	この法律は、土砂災害から国民の生命及び身体を保護するため、土砂災害が発生するおそれがある土地の区域を明らかにし、当該区域における警戒避難体制の整備を図るとともに、著しい土砂災害が発生するおそれがある土地の区域において一定の開発行為を制限し、建築物の構造の規制に関する所要の措置を定めるほか、土砂災害の急迫した危険がある場合において避難に資する情報を提供すること等により、土砂災害の防止のための対策の推進を図り、もって公共の福祉の確保に資することを目的とする。

立法或修改理由 本條旨揭土砂災害防制法之立法目的，並概括規定達成立法目的之方法，藉以定位本法之法律性質。

¹ 本法翻譯內容為本局委辦案件之成果，僅供參考。

說明與學說介紹 所謂「保護國民生命與身體免受土砂災害危害」之意義

制定本法之最主要目的，係期待本法能發揮「保護國民生命與身體免受土砂災害危害」之功能，因此，國民之生命與身體法益，為本法直接保護之對象；至於土地、房屋等財產法益，並非本法直接規範保護之法益。是以，依本法所採措施，結果上雖可能保護人民之財產上利益，但純屬反射利益。同理可證，本法採取嚴格之許可制，甚至是採用強制性管制措施，並未規範任何補償措施，就是因為立法目的上財產保護並非本法之核心價值所在。另外，值得一提的是，現行法中，以「國民生命之保護」為目的之立法，尚有「陡坡地法」，而該法亦設有同樣相當嚴格之行為管制。「陡坡地法」與本法最大的不同點在於，該法設有工程相關之法律規定，本法並未設有任何工程方面之規範。

第二條

中文	本法所稱「土砂災害」，為陡坡崩塌（坡度三十度以上之坡面崩塌的自然現象。）、土石流（山腹崩塌所產生土石，或溪流內之土石等與雨水混合後流動之自然現象。第二十七條第二項及第二十八條第一項之名詞定義同此。）以及地滑（土地局部因地下水等原因導致滑動的自然現象或伴隨產生移
----	--

	<p>動的自然現象。同項中相同。)(以下總稱為「陡坡崩塌等」。)</p> <p>或是河道阻塞形成堰塞湖導致迴水(土石等阻塞河道、造成上游水位昇高的自然現象。第七條第一項及第二十八條第一項名詞定義同此。)因而造成國民生命或身體的傷害。</p>
原文	<p>この法律において「土砂災害」とは、急傾斜地の崩壊（傾斜度が三十度以上である土地が崩壊する自然現象をいう。）、土石流（山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が水と一体となって流下する自然現象をいう。第二十七条第二項及び第二十八条第一項において同じ。）若しくは地滑り（土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象又はこれに伴って移動する自然現象をいう。同項において同じ。）（以下「急傾斜地の崩壊等」と総称する。）又は河道閉塞による湛水（土石等が河道を閉塞したことによって水がたまる自然現象をいう。第七条第一項及び第二十八条第一項において同じ。）を発生原因として国民の生命又は身体に生ずる被害をいう。</p>

立法或修改理由 本條為名詞解釋的條文，目的在於規範本法所防制之「土砂災害」的定義

說明與學說介紹 所謂「土砂災害」之定義

本法之立法目的在於「保護國民生命與身體免受土砂災害危害」，因此，立法規劃上，必須使主管機關得以採取達成此一目的之必要行政措施，例如「建立警戒避難體制」、「管制土地利用」以及「限制建築」等等積極之行政措施。是以，本法所稱「土砂災害」就必須而且

有必要限定在「可得預知預見之自然現象」，否則無法具體規劃積極之行政措施。惟，「可得預知預見之自然現象」之認定，必須有科學數據做為印證，本條文之制定與解釋，實係以砂防三法之實施成果所累積下來的實務上的數據為本，做為認定可能發生土砂災害之區域。

「陡坡地崩塌」之定義

「陡坡地之崩塌」為本條文所規定之土砂災害發生原因之一，其定義為「陡坡度 30 度以上之坡地崩塌的自然現象」。所謂「陡坡度」係指，地表和水平面所形成的角度而言。「陡坡地」之定義與「陡坡地法」第 2 條所規定之定義相同。

坡地下方平坦地區若有村莊聚落，則陡坡地一旦崩塌，崩落的土石將會直接衝擊房屋，不但會造成房屋毀損，也會造成人員傷亡。由於土石崩落的速度快速且具突發性，其成因多因集中型豪雨等豪大雨所致。然而，陡坡地崩塌的規模，通常比其他土砂災害小，受災範圍多侷限在陡坡地下方，且多為房屋建築物以及直接造成人員傷亡。本法所規範之陡坡地崩塌，是以過去累積之科學上數據，在陡坡地崩塌前，設定可能發生危險之地區，具體而言，就是預設所謂「地表崩塌」。如此規範之立法目的，在於依本法規定防制土砂災害之對策，係課以

居民一定義務，因此有必要將規範之對象災害明確規定。本條文雖為明文規定「地表崩塌」，但是參照第 7、9 條之規定，依照體系解釋之方式，應可得知。

第三條

中文	<p>國土交通大臣應訂定可用來推動土砂災害防止對策相關的基本方針（以下稱為「基本方針」）。</p> <p>基本方針應明定以下事項。</p> <p>一 根據本法所施行土砂災害防止對策之相關基本事項</p> <p>二 可作為次條第一項施行基礎調查方針的事項</p> <p>三 依第七條第一項規定指定土砂災害警戒區域，以及依第九條第一項規定指定土砂災害特別警戒區域時可作為方針的事項</p> <p>四 第九條第一項土砂災害警戒區域內建築物搬遷，及其他依本法所施行土砂災害防止對策之相關可作為方針的事項</p> <p>五 可作為依第二十七條第一項規定設定危險降雨量，並依同項規定通知及周知土砂災害警戒情報之所需措施方針之事項。</p> <p>六 可作為依第二十八條第一項及第二十九條第一項實施緊急調查並依第三十一條第一項規定通知及周知土砂災害緊急情報所需措施方針的事項</p> <p>國土交通大臣訂定基本方針之際應先與總務大臣及農林水產大臣協議，並聽取社會資本整備審議會之意見。</p> <p>國土交通大臣訂定基本方針之後應儘速公佈。</p>
----	---

	前二項規定準用於基本方針之變更。
原文	<p>国土交通大臣は、土砂災害の防止のための対策の推進に関する基本的な指針(以下「基本指針」という。)を定めなければならない。</p> <p>2 基本指針においては、次に掲げる事項について定めるものとする。</p> <p>一 この法律に基づき行われる土砂災害の防止のための対策に関する基本的な事項</p> <p>二 次条第一項の基礎調査の実施について指針となるべき事項</p> <p>三 第七条第一項の規定による土砂災害警戒区域の指定及び第九条第一項の規定による土砂災害特別警戒区域の指定について指針となるべき事項</p> <p>四 第九条第一項の土砂災害特別警戒区域内の建築物の移転その他この法律に基づき行われる土砂災害の防止のための対策に関し指針となるべき事項</p> <p>五 第二十七条第一項の規定による危険降雨量の設定並びに同項の規定による土砂災害警戒情報の通知及び周知のための必要な措置について指針となるべき事項</p> <p>六 第二十八条第一項及び第二十九条第一項の緊急調査の実施並びに第三十一条第一項の規定による土砂災害緊急情報の通知及び周知のための必要な措置について指針となるべき事項</p> <p>3 国土交通大臣は、基本指針を定めようとするときは、あらかじめ、総務大臣及び農林水産大臣に協議するととも</p>

	<p>に、社会資本整備審議会の意見を聴かなければならない。</p> <p>4 国土交通大臣は、基本指針を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。</p> <p>5 前二項の規定は、基本指針の変更について準用する。</p>
--	---

立法或修改理由 本條規定，國土交通大臣必須訂定「土砂災害防止對策基本指針」（以下稱基本指針），並規定基本指針應記載之內容、訂定程序以及變更程序。

說明與學說介紹 本條文規定之意旨在於，規定「基本指針」應規定之六大內容，並規定「基本指針」之訂定程序與公開。

基本方針訂定之際，應由總務大臣與農林水產大臣事先協議。主要目的在於，總務大臣主管地方自治團體防災業務，而農林水產大臣則是掌有山地災害危險地區之調查資料以及過去山地災害之相關資料，因此，個別土砂災害警戒區域之警戒避難體制的擬定，應由兩大臣互相協助調整訂定之。

其次，本條文亦規定，基本指針之訂定，應聽取「社會資本整備審議會」之意見。如此規範之主要目的在於，讓政策形成之過程能公正、透明並導入專門知識。

第四條

中文	道府縣應根據基本方針，約每五年進行一次依第七條第一項
----	----------------------------

	<p>規定指定土砂災害警戒區域，以及依第九條第一項規定指定土砂災害特別警戒區域，與其他依本法所實施防止土砂災害所需對策之必要的基礎調查；含有陡坡崩塌等發生之虞之土地相關地形、地質、降雨等狀況，以及有土砂災害發生之虞之土地利用狀況及其他相關事項的調查（稱為「基礎調查」）。</p> <p>2 都道府縣應依國土交通省令確認之基礎調查結果，通知相關市町村長（含特別區。以下同），並公佈之。</p> <p>3 國土交通大臣認為本法施行過程中有必要時，得要求都道府縣針對基礎調查結果提出必要的報告。</p>
原文	<p>都道府県は、基本指針に基づき、おおむね五年ごとに、第七条第一項の規定による土砂災害警戒区域の指定及び第九条第一項の規定による土砂災害特別警戒区域の指定その他この法律に基づき行われる土砂災害の防止のための対策に必要な基礎調査として、急傾斜地の崩壊等のおそれがある土地に関する地形、地質、降水等の状況及び土砂災害の発生のおそれがある土地の利用の状況その他の事項に関する調査(以下「基礎調査」という。)を行うものとする。</p> <p>2 都道府県は、基礎調査の結果を、国土交通省令で定めるところにより、関係のある市町村(特別区を含む。以下同じ。)の長に通知するとともに、公表しなければならない。</p> <p>3 国土交通大臣は、この法律を施行するため必要があると認めるときは、都道府県に対し、基礎調査の結果について必要な報告を求めることができる。</p>

立法或修改理由	本條之立法目的在於，規定基礎調查之實施與施行規則（基礎調查之通知與公開方法）
說明與學說介紹	<p>本條規定都道府縣政府，為有效推動本法規定之土砂災害防止對策，包括「土砂災害警戒區域、土砂災害特別警戒區域之指定」、「土砂災害警戒區域警戒避難體制之整備」、土砂災害特別警戒區域特定開發行為之限制等等，因此必須實施基礎調查，以收集各種不可或缺之資訊，本條規定大致上至少 5 年實施一次。</p> <p>基礎調查之所以規定由都道府縣政府實施，係因為本法所規定事務，基本上多屬都道府縣之自治事項之故。</p>

第五條

中文	<p>（實施基礎調查可進入民眾土地等）</p> <p>都道府縣知事及其指定之人或受其委任之人，實施基礎調查有必要不可或缺之情形時，得在必要之限度內，進入他人所占有之土地，或暫時使用無特殊用途之他人土地做為工作場地。</p> <p>2 依前項規定進入他人所占有之土地者，應於事前通知土地之占有人相關事由。但事前通知有困難時，不在此限。</p> <p>3 依第一項規定進入之宅地或以圍牆、柵欄等圍住之他人占有之土地者，應於事前告知土地之占有人相關事由。</p> <p>4 日出前及日沒後不得進入前項規定之土地，但取得土地</p>
----	--

	<p>占有人之同意者，不在此限。</p> <p>5 依第一項規定進入他人所占有之土地者，應攜帶身份證明文件，並於關係人請求時，出示該身份證明文件。</p> <p>6 依第一項之規定暫時以他人無特殊用途之土地，做為工作場地使用者，應於事前通知土地之占有人及所有人，並聽取其意見。</p> <p>7 土地之占有人及所有人非有正當理由，不得拒絕或妨礙依第一項規定之進入或暫時使用。</p> <p>8 都道府縣依第一項規定進入或暫時使用致生損害時，應補償受損害人依通常之情形可能產生之損失。</p> <p>9 前項規定之損失補償，都道府縣與受損害人應共同進行協議。</p> <p>10 前項協議無法達成時，都道府縣應以自行估算之金額給付受損害人。不服給付金額者，得依政令規定，於受給付之日起三十日內，聲請徵收委員會依土地徵收法（一九五一年法律第二百十九號）第九十四條第二項之規定作成裁決。</p>
原文	<p>都道府県知事又はその命じた者若しくは委任した者は、基礎調査のためにやむを得ない必要があるときは、その必要な限度において、他人の占有する土地に立ち入り、又は特別の用途のない他人の土地を作業場として一時使用することができる。</p> <p>2 前項の規定により他人の占有する土地に立ち入ろうとする者は、あらかじめ、その旨を当該土地の占有者に通知しなければならない。ただし、あらかじめ通知することが困難であるときは、この限りでない。</p>

- 3 第一項の規定により宅地又は垣、柵等で囲まれた他人の占有する土地に立ち入ろうとする場合においては、その立ち入ろうとする者は、立入りの際、あらかじめ、その旨を当該土地の占有者に告げなければならない。
- 4 日出前及び日没後においては、土地の占有者の承諾があった場合を除き、前項に規定する土地に立ち入ってはならない。
- 5 第一項の規定により他人の占有する土地に立ち入ろうとする者は、その身分を示す証明書を携帯し、関係人の請求があったときは、これを提示しなければならない。
- 6 第一項の規定により特別の用途のない他人の土地を作業場として一時使用しようとする者は、あらかじめ、当該土地の占有者及び所有者に通知して、その意見を聴かなければならない。
- 7 土地の占有者又は所有者は、正当な理由がない限り、第一項の規定による立入り又は一時使用を拒み、又は妨げてはならない。
- 8 都道府県は、第一項の規定による立入り又は一時使用により損失を受けた者がある場合においては、その者に対して、通常生ずべき損失を補償しなければならない。
- 9 前項の規定による損失の補償については、都道府県と損失を受けた者とが協議しなければならない。
- 10 前項の規定による協議が成立しない場合においては、都道府県は、自己の見積もった金額を損失を受けた者に支払わなければならない。この場合において、当該金額につ

	いて不服のある者は、政令で定めるところにより、補償金の支払を受けた日から三十日以内に、収用委員会に土地収用法(昭和二十六年法律第二百十九号)第九十四条第二項の規定による裁決を申請することができる。
--	--

立法或修改理由 第 5 條規定關於實施基礎調查時，於必要之限度內，有進入他人土地以及暫時使用他人土地之權限。

都道府縣進行基礎調查時，其職員或受雇者，有可能須要進入私有進行調查。此時，必須在第一時間，向土地所有人或佔有人，充分說明進入之目的並取得同意。然而，即使充分說明，仍無法取得當事人同意時，將可能錯失調查時機，也就無法達成公益之目的。理論上，為達公共利益，私權有忍受必要最小限度之限制的義務，因此，無正當理由而拒絕公務之使用，應屬權利之濫用。本條文即是規定，在必要之限度內，即使未得土地所有人或佔有人之同意，在踐行程序正義之前提下，得以進入私人土地。

說明與學說介紹 本條規範進入私人土地調查之必要性、進入私人土地應遵守之必要程序規範以及損失補償。程序之規定包括：1.事前通知土地佔有人 2.進入他人之住屋或設有圍牆、柵欄等之私有地，應告知佔有人 3.日出日落進入私有地時，需土地佔有人之同意 4.進入他人佔有之土地時，應攜

帶身份證明文件 5.暫時使用他人土地時，須事前聽取所有人或佔有人意見 6.佔有人或所有人之忍受義務。

第六條

中文	<p>（請求修改基礎調查之方式）</p> <p>都道府縣辦理基礎調查相關事務違反法令之規定，或未依科學見解執行，致使依該基礎調查之結果，將導致次條第一項土砂災害警戒區域之指定，及第九條第一項土砂災害特別警戒區域之指定，明顯欠缺正當性並顯有危害居民等生命或身體之虞時，國土交通大臣依地方自治法（一九四七年法律第六十七號）第二百四十五條之五第一項規定，請求改善者，都道府縣應提出改善措施內容進行改善。</p>
原文	<p>国土交通大臣は、都道府県の基礎調査に関する事務の処理が法令の規定に違反している場合又は科学的知見に基づかずに行われている場合において、当該基礎調査の結果によったのでは次条第一項の規定による土砂災害警戒区域の指定又は第九条第一項の規定による土砂災害特別警戒区域の指定が著しく適正を欠くこととなり、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあることが明らかであるとして地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十五条の五第一項の規定による求めを行うときは、当該都道府県が講ずべき措置の内容を示して行うものとする。</p>

立法或修改理由 基礎調查本屬地方自治事務，各都道府縣均應負責進行適當之處置。然而，土砂災害防制法

實施 10 幾年來，及至 2014 年，仍發生廣島市北部大規模土砂災害，當時就發現日本各地仍有許多地區，尚未完成基礎調查，甚且居民亦未充分瞭解土砂災害之危險性。為此，增修本條文，以因應都道府縣未充分盡責時，國家有必要介入之空間。

說明與學說介紹 本條規定，都道府縣處理基礎調查相關事務，一旦有違反法令之規定或未以科學之方式處置，因而導致居民生命身體明顯有發生危害之虞時，國土交通大臣，得依地方自治法第 245 條之 5，進行糾正，本條則是特別規定，國家得以要求地方政府採取特定內容之應變措施。

第七條

中文	<p>（土砂災害警戒區域）</p> <p>都道府縣知事依基本方針之規定，就陡坡崩塌發生時可能造成危害居民生命身體之災害的潛勢區，為防止該區域發生土砂災害（發生原因為河道阻塞形成迴水者除外。以下本章、次章第二十七條相同。），應將其認定為須特別整備警戒避難體制之土地區域。該土地區域符合政令規定之基準者，指定為土砂災害警戒區域（以下稱為「警戒區域」）。</p> <p>2 依前項規定之指定（以下本條稱為「指定」），應針對第二條所規定土砂災害發生原因，逐一決定指定區域及其發生原因之自然現象種類。</p> <p>3 都道府縣知事進行指定之際，應先徵詢相關市町村長意</p>
----	---

	<p>見。</p> <p>4 都道府県知事進行指定時，應依國土交通省令所定規範，公告指定內容、指定區域，以及土砂災害發生原因之自然現象種類。</p> <p>5 都道府県知事依前項規定公告之際，應速依國土交通省令所定規範，將記載依同項規定公告事項的圖書送達相關市町村長。</p> <p>6 前三項規定準用於指定解除時。</p>
原文	<p>都道府県知事は、基本指針に基づき、急傾斜地の崩壊等が発生した場合には住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、当該区域における土砂災害(河道閉塞による湛水を発生原因とするものを除く。以下この章、次章及び第二十七条において同じ。)を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域として政令で定める基準に該当するものを、土砂災害警戒区域(以下「警戒区域」という。)として指定することができる。</p> <p>2 前項の規定による指定(以下この条において「指定」という。)は、第二条に規定する土砂災害の発生原因ごとに、指定の区域及びその発生原因となる自然現象の種類を定めてするものとする。</p> <p>3 都道府県知事は、指定をしようとするときは、あらかじめ、関係のある市町村の長の意見を聴かなければならない。</p> <p>4 都道府県知事は、指定をするときは、国土交通省令で</p>

	<p>定めるところにより、その旨並びに指定の区域及び土砂災害の発生原因となる自然現象の種類を公示しなければならない。</p> <p>5 都道府県知事は、前項の規定による公示をしたときは、速やかに、国土交通省令で定めるところにより、関係のある市町村の長に、同項の規定により公示された事項を記載した図書を送付しなければならない。</p> <p>6 前三項の規定は、指定の解除について準用する。</p>
--	--

立法或修改理由 本條除「土砂災害警戒區域外，並規定該區域之指定與解除權限以及指定與解除程序本條對於可能因陡坡地崩塌，而發生居民生命身體可能遭受危害之虞之區域，依法應認定為「警戒避難體制」特別整備區域，符合行政命令所定基準者，稱之為「土砂災害警戒區域」。

說明與學說介紹 本條規定土砂災害警戒區域之意義，依本條第1項之規定，「都道府縣知事依基本方針之規定，就陡坡崩塌發生時可能造成危害居民生命身體之災害的潛勢區，為防止該區域發生土砂災害（發生原因為河道阻塞形成迴水者除外。以下本章、次章第二十七條相同。），應將其認定為須特別整備警戒避難體制之土地區域。該土地區域符合政令規定之基準者，指定為土砂災害警戒區域（以下稱為「警戒區域」）」。其中，「可能造成危害居民生命身體之災害的潛勢區」，並非僅指「發生土砂災害或然率高且

現已建有住宅之區域」，尚且包括目前雖未有建物，但從地形條件來看，有發生陡坡崩塌之可能，將來若開發興建住宅，則有發生土砂災害之虞，也就是有發生土砂災害危險之潛在區域。

第八條

中文	<p>（警戒避難體制之整備等）</p> <p>市町村防災會議（指災害對策基本法（一九六一年法律第二百二十三號）第十六條第一項所稱市町村防災會議，未設置本會議之市町村，則為該市町村之村長。次項之規定亦同。）依前條第一項規定已指定警戒區域者，市町村地域防災計畫（同法第四十二條第一項所稱市町村地域防災計畫。次項之規定亦同。）應就個別警戒區域，規定下列事項。</p> <p>一 收集並傳達土砂災害相關資訊；發佈並傳達預報或警報相關事項</p> <p>二 避難設施及其他避難場所；避難路徑及其他避難路線相關事項</p> <p>三 災害對策基本法第四十八條第一項實施防災訓練之中與土砂災害相關避難訓練實施有關的事項</p> <p>四 警戒區域內之社會福祉設施、學校、醫療設施及其他主要防災需顧慮者所使用設施，在有陡坡崩塌等發生之虞而認定有必要確保利用該當設施者順利迅速避難時，這些設施的名稱及所在地</p> <p>五 救助相關事項</p>
----	--

	<p>六 前各款法令所明定之外，警戒區域防止土砂災害所必要的警戒避難體制相關事項</p> <p>2 市町村防災會議依前項規定在市町村地域防災計畫中決定同項第四款列舉事項時，該當市町村地域防災計畫中有陡坡崩塌等發生之虞時，為確保利用同款所規定之設施使用者能順利迅速避難，應確認同項第一款所列土砂災害相關情報、預報及警報之傳達相關事項。</p> <p>3 警戒區域所在區域的市町村長應根據市町村地域防災計畫與國土交通省令所訂事項，將土砂災害相關情報傳達方法，以及陡坡崩塌等有發生之虞時的避難設施、避難場所、避難路徑以及其他避難路線等等事項，以及能讓警戒區域民眾順利進行警戒避難之相關事項，加強周知，並分送記載此類事項之印刷物及其他必要之措施。</p>
原文	<p>市町村防災會議(災害対策基本法(昭和三十六年法律第二百二十三号)第十六条第一項の市町村防災會議をいい、これを設置しない市町村にあっては、当該市町村の長とする。次項において同じ。)は、前条第一項の規定による警戒区域の指定があったときは、市町村地域防災計画(同法第四十二条第一項の市町村地域防災計画をいう。以下同じ。)において、当該警戒区域ごとに、次に掲げる事項について定めるものとする。</p> <p>一 土砂災害に関する情報の収集及び伝達並びに予報又は警報の発令及び伝達に関する事項</p> <p>二 避難施設その他の避難場所及び避難路その他の避難経路に関する事項</p>

三 災害対策基本法第四十八条第一項の防災訓練として市町村長が行う土砂災害に係る避難訓練の実施に関する事項

四 警戒区域内に、要配慮者利用施設(社会福祉施設、学校、医療施設その他の主として防災上の配慮を要する者が利用する施設をいう。以下同じ。)であって、急傾斜地の崩壊等が発生するおそれがある場合における当該要配慮者利用施設を利用している者の円滑かつ迅速な避難を確保する必要があると認められるものがある場合にあっては、当該要配慮者利用施設の名称及び所在地

五 救助に関する事項

六 前各号に掲げるもののほか、警戒区域における土砂災害を防止するために必要な警戒避難体制に関する事項

2 市町村防災会議は、前項の規定により市町村地域防災計画において同項第四号に掲げる事項を定めるときは、当該市町村地域防災計画において、急傾斜地の崩壊等が発生するおそれがある場合における要配慮者利用施設を利用している者の円滑かつ迅速な避難を確保するため、同項第一号に掲げる事項として土砂災害に関する情報、予報及び警報の伝達に関する事項を定めるものとする。

3 警戒区域をその区域に含む市町村の長は、市町村地域防災計画に基づき、国土交通省令で定めるところにより、土砂災害に関する情報の伝達方法、急傾斜地の崩壊等が発生するおそれがある場合における避難施設その他の避難場所及び避難路その他の避難経路に関する事項その他警

	戒区域における円滑な警戒避難を確保する上で必要な事項を住民等に周知させるため、これらの事項を記載した印刷物の配布その他の必要な措置を講じなければならない。
--	---

立法或修改理由 本條規定警戒避難體制之整備。

說明與學說介紹 本條規定，「警戒區域」指定後，該警戒區域所在地之市町村防災會議負有義務，除了必須在「市町村地域防災計畫」（依土砂災害防制法之規定所擬定）中，針對各警戒區域，訂定警戒避難體制相關事項外，並有義務要求市町村長，必須公告周知警戒避難之必要事項。

第八條之二

中文	<p>依前條第一項之規定，市町村地區防災計畫中，訂有名稱及所在地之須受照護人利用設施之所有人或管理人，應依國土交通省令之規定，作成必要之訓練或其他措施相關計畫，以確保陡坡地崩塌發生之虞時，使用須受照護人利用設施之人民，得以順利迅速避難。</p> <p>前項須受照護人利用設施之所有人或管理人，依前項規定作成計畫時，應迅速向市町村長報告。變更時亦同。</p> <p>市町村長，於第一項須受照護人之利用設施所有人或管理人，未依第一項規定作成計畫時，認為有發生陡坡地崩塌之虞之情形，為確保使用須受照護人設施者得以順利迅速避難而有必要者，得對須受照護人之利用設施所有人或管理人，為必要之指示。</p> <p>市町村長對於依前項規定，受指示之須受照護人利用設施之</p>
----	--

	<p>所有人或管理人，無正當理由，不遵從指示時，得將其情形公布。</p> <p>第一項須受照護人利用設施之所有人或管理人，應依同項規定所定計畫，實施訓練，以確保有陡坡地崩塌發生之虞時，使用須受照護人利用設施之人，得以順利迅速避難。</p>
原文	<p>前条第一項の規定により市町村地域防災計画にその名称及び所在地を定められた要配慮者利用施設の所有者又は管理者は、国土交通省令で定めるところにより、急傾斜地の崩壊等が発生するおそれがある場合における当該要配慮者利用施設を利用している者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な訓練その他の措置に関する計画を作成しなければならない。</p> <p>2 前項の要配慮者利用施設の所有者又は管理者は、同項の規定による計画を作成したときは、遅滞なく、これを市町村長に報告しなければならない。これを変更したときも、同様とする。</p> <p>3 市町村長は、第一項の要配慮者利用施設の所有者又は管理者が同項に規定する計画を作成していない場合において、急傾斜地の崩壊等が発生するおそれがある場合における当該要配慮者利用施設を利用している者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため必要があると認めるときは、当該要配慮者利用施設の所有者又は管理者に対し、必要な指示をすることができる。</p> <p>4 市町村長は、前項の規定による指示を受けた第一項の要配慮者利用施設の所有者又は管理者が、正当な理由がな</p>

	<p>く、その指示に従わなかったときは、その旨を公表することができる。</p> <p>5 第一項の要配慮者利用施設の所有者又は管理者は、同項に規定する計画で定めるところにより、急傾斜地の崩壊等が発生するおそれがある場合における同項の要配慮者利用施設を利用している者の円滑かつ迅速な避難の確保のための訓練を行わなければならない。</p>
--	---

立法或修改理由 本條規定須受照護人利用設施之所有人等應作成防災避難計畫。

說明與學說介紹 須受照護人利用設施之所有人或管理人，應作成必要之訓練或相關計畫，以利使用設施之人民，得以順利迅速避難。

第九條

中文	<p>（土砂災害特別警戒區域）</p> <p>都道府縣知事依據基本方針，對於警戒區域內陡坡地崩塌等情形發生時，可能出現建築物損毀或嚴重危害居民生命、身體等區域，得限制為特定開發行為，並認定該區域為有居室（建築基準法（一九五〇年法律第二百零一號）第二條第四款規定稱為居室。以下亦同。）建築物構造應管制區域，其符合政令所定基準者，得指定為土砂災害特別警戒區域（以下稱「特別警戒區域」。）</p> <p>2 前項規定之指定（以下本條稱為「指定」），應依第二條所規定之個別土砂災害發生原因，明訂指定區域、其發生原因之自然現象種類，以及該自然現象可能對建築物產生之</p>
----	---

	<p>衝擊等相關事項（以防止土砂災害發生所應管制之建築物構造事項且為政令所明訂者為限）。</p> <p>3 都道府縣知事進行指定時，應先徵詢相關市町村長意見。</p> <p>4 都道府縣知事進行指定時，應依國土交通省令之規定，公告指定之意旨、指定區域、造成土砂災害發生之自然現象種類，以及第二項所定之政令管制事項。</p> <p>5 都道府縣知事依前項規定進行公告時，應儘速依國土交通省令之規定，將記載依同項規定應公告事項之文書，送達相關市町村長。</p> <p>6 指定應依第四項規定公告，始生效力。</p> <p>7 相關市町村長應將第五項所定文書，於市町村辦公室，提供民眾公開閱覽。</p> <p>8 都道府縣知事認定防制土砂災害相關工程實施後，特別警戒區域之全部或局部已無指定事由時，應解除全部或局部特別警戒區域之指定。</p> <p>9 第三項至第六項之規定，於前項解除指定時準用之。</p>
原文	<p>都道府県知事は、基本指針に基づき、警戒区域のうち、急傾斜地の崩壊等が発生した場合には建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、一定の開発行為の制限及び居室(建築基準法(昭和二十五年法律第二百一号)第二条第四号に規定する居室をいう。以下同じ。)を有する建築物の構造の規制をすべき土地の区域として政令で定める基準に該当するものを、土砂災害特別警戒区域(以下「特別警戒</p>

区域」という。)として指定することができる。

2 前項の規定による指定(以下この条において「指定」という。)は、第二条に規定する土砂災害の発生原因ごとに、指定の区域並びにその発生原因となる自然現象の種類及び当該自然現象により建築物に作用すると想定される衝撃に関する事項(土砂災害の発生を防止するために行う建築物の構造の規制に必要な事項として政令で定めるものに限る。)を定めてするものとする。

3 都道府県知事は、指定をしようとするときは、あらかじめ、関係のある市町村の長の意見を聴かなければならない。

4 都道府県知事は、指定をするときは、国土交通省令で定めるところにより、その旨並びに指定の区域、土砂災害の発生原因となる自然現象の種類及び第二項の政令で定める事項を公示しなければならない。

5 都道府県知事は、前項の規定による公示をしたときは、速やかに、国土交通省令で定めるところにより、関係のある市町村の長に、同項の規定により公示された事項を記載した図書を送付しなければならない。

6 指定は、第四項の規定による公示によってその効力を生ずる。

7 関係のある市町村の長は、第五項の図書を当該市町村の事務所において、一般の縦覧に供しなければならない。

8 都道府県知事は、土砂災害の防止に関する工事の実施等により、特別警戒区域の全部又は一部について指定の事

	<p>由がなくなつたと認めるときは、当該特別警戒区域の全部又は一部について指定を解除するものとする。</p> <p>9 第三項から第六項までの規定は、前項の規定による解除について準用する。</p>
--	--

立法或修改理由 第9條規定，陡坡地崩塌等情形發生時，可能出現建築物損毀或嚴重危害居民生命、身體等區域，得限制為特定開發行為。對於設有房間之建築物，其構造應管制之區域，得指定為土砂災害特別警戒區域。除此之外，並警戒規定特別警戒區域之指定與解除程序。

說明與學說介紹 本條規定，土砂災害特別警戒區域之意義、指定權限之歸屬與方法以及指定基準。

第十條

中文	<p>（特定開發行為之限制）</p> <p>特別警戒區域內，從事都市計畫法（一九六八年法律第一百號）第四條第十二項所規定之開發行為，且該開發行為土地區域內，預定興建之建築物（該區域橫跨特別警戒區域內外者，特別警戒區域外興建之建築物除外。以下稱「預定建築物」。），其用途屬管制用途者（以下稱「特定開發行為」。），應事前取得都道府縣知事之許可；非常災害之必要應變措施，以及其他政令所規定之行為，不在此限。</p> <p>2 前項管制用途，係指建築物之預定用途，且非住宅（供自己居住之用者除外。），或高齡者、障礙者、乳幼兒及其他防災時須要特別照顧者所使用之社會福祉設施、學校及醫</p>
----	--

	療設施（限政令規定）用途者。
原文	<p>特別警戒区域内において、都市計画法(昭和四十三年法律第百号)第四条第十二項に規定する開発行為で当該開発行為をする土地の区域内において建築が予定されている建築物(当該区域が特別警戒区域の内外にわたる場合においては、特別警戒区域外において建築が予定されている建築物を除く。以下「予定建築物」という。)の用途が制限用途であるもの(以下「特定開発行為」という。)をしようとする者は、あらかじめ、都道府県知事の許可を受けなければならない。ただし、非常災害のために必要な応急措置として行う行為その他の政令で定める行為については、この限りでない。</p> <p>2 前項の制限用途とは、予定建築物の用途で、住宅(自己の居住の用に供するものを除く。)並びに高齢者、障害者、乳幼児その他の特に防災上の配慮を要する者が利用する社会福祉施設、学校及び医療施設(政令で定めるものに限る。)以外の用途でないものをいう。</p>

立法或修改理由 第10條至第23條，係有關特別警戒區域內特定開發行為之規定。第10條除定義「特定開發行為」外，亦規定限制特定開發行為之內容。本條文之規範意旨在於，透過管制特定開發行為，設立許可制度，以求事前抑制土砂災害之目的。

說明與學說介紹 本條規範土地開發階段之限制，並規定應設定各建築階段之規制，定義何謂「特定開發行為」等。

第十一條

中文	<p>(申請之程序)</p> <p>前條第一項許可之申請人，應依國土交通省令之規定，提出記載下列事項之申請書。</p> <p>一 特定開發行為之土地區域（第十四條第二項及第十九條稱為「開發區域」。）位置、區域及規模。</p> <p>二 預定建築物（以前條第一項管制用途者為限。以下稱為「特定預定建築物」。）之用途及其基地位置。</p> <p>三 為防制土砂災害自行於特定預定建築物所施作之工程（第四款所稱「對策工程」。）之計畫。</p> <p>四 對策工程以外之特定開發行為相關工程計畫</p> <p>五 其他國土交通省令規定事項</p> <p>前項申請書，須檢附國土交通省令規定之文書。</p>
原文	<p>前条第一項の許可を受けようとする者は、国土交通省令で定めるところにより、次に掲げる事項を記載した申請書を提出しなければならない。</p> <p>一 特定開発行為をする土地の区域(第十四条第二項及び第十九条において「開発区域」という。)の位置、区域及び規模</p> <p>二 予定建築物(前条第一項の制限用途のものに限る。以下「特定予定建築物」という。)の用途及びその敷地の位置</p> <p>三 特定予定建築物における土砂災害を防止するため自ら施行しようとする工事(次号において「対策工事」という。)の計画</p> <p>四 対策工事以外の特定開発行為に関する工事の計画</p>

	<p>五 その他国土交通省令で定める事項</p> <p>2 前項の申請書には、国土交通省令で定める図書を添付しなければならない。</p>
--	--

立法或修改理由 第 11 條之規定申請之程序，以使第 10 條特定開發行為之許可，得以適當審查。本條第 1 項規定申請人應提出申請書，並規定該申請書應記載之事項。第 2 項則規定，申請人補正申請書內容者，負有添附特定圖說之義務。

說明與學說介紹 本條規範申請人之定義、申請書應記載事項、申請書及應添附之圖說。

第十二條

中文	<p>（許可之基準）</p> <p>都道府縣知事對於依第十條第一項所提之申請，應確認其依前條第一項第三款及第四款規定所提工程計畫（以下稱「對策工程等」。），有關施作特定預定建築物防制土砂災害之必要措施，確實符合政令規定之技術基準，且其申請程序，不得違反本法或依本法發佈之命令後，始得發給許可。</p>
原文	<p>都道府県知事は、第十条第一項の許可の申請があったときは、前条第一項第三号及び第四号に規定する工事(以下「対策工事等」という。)の計画が、特定予定建築物における土砂災害を防止するために必要な措置を政令で定める技術的基準に従い講じたものであり、かつ、その申請の手続がこの法律又はこの法律に基づく命令の規定に違反していないと認めるときは、その許可をしなければならない。</p>

立法或修改理由	第 12 條規定第 10 條特定開發行為之許可基準。
說明與學說介紹	一旦有特定開發行為之許可申請，都道府縣之首長，除須審查申請程序是否符合本法之規定外，尚須就審查申請內容是否符合執行命令之規定，予以審查。換言之，許可與否之判斷，並非都道府縣首長之自由裁量，而須依執行命令之客觀基準，予以合理之判斷。本條規定許可判斷之基準，至於技術性基準則由執行命令規範。

第十三條

中文	（許可之條件） 都道府縣知事作成第十條第一項之許可時，得以附款要求施作對策工程等，應有防制災害之必要措施。
原文	都道府県知事は、第十条第一項の許可に、対策工事等の施行に伴う災害を防止するために必要な条件を付することができる。

立法或修改理由	第 13 條規定第 10 條第 1 項特定開發行為之許可附款。第 12 條所規定者，係第 10 條第 1 項特定開發行為之許可基準，而第 13 條則是規定都道府縣首長，為防止業者取得許可，實施特定工程時，可能另外發生新災情，得對許可添加附款。
---------	---

說明與學說介紹	本條規範附款之內容、附款之變更以及罰則。
---------	----------------------

第十四條

中文	<p>(已開始施作時的申請)</p> <p>依第九條第一項規定指定特別警戒區域時，於該特別警戒區域內已進行特定開發行為（第十條第一項但書政令所規定行為除外。）者，應於指定日起二十一日內，依國土交通省令之規定，向都道府縣知事申報前述開發情形。</p> <p>2 都道府縣知事對於依前項規定提出之申報，認為該申報相關開發區域（限特別警戒區域內者。）有防止土砂災害之必要時，得提供該當申請人預定建築物用途變更及其他必要之建議或勸告。</p>
原文	<p>九条第一項の規定による特別警戒区域の指定の際当該特別警戒区域内において既に特定開発行為(第十条第一項ただし書の政令で定める行為を除く。)に着手している者は、その指定の日から起算して二十一日以内に、国土交通省令で定めるところにより、その旨を都道府県知事に届け出なければならない。</p> <p>2 都道府県知事は、前項の規定による届出があった場合において、当該届出に係る開発区域(特別警戒区域内のものに限る。)における土砂災害を防止するために必要があると認めるときは、当該届出をした者に対して、予定建築物の用途の変更その他の必要な助言又は勧告をすることができる。</p>

立法或修改理由 第14條規定，特別警戒區域指定時，已著手進行特定開發行為者，必須向都道府縣政府申報，都道府縣則必須對其進行輔導與勸告。

說明與學說介紹 本條規定申報之期間、申報書之格式、輔導與勸告之內容以及罰則。

第十五條

中文	(許可之特例) 國家或地方自治團體所施行特定開發行為，視為國家或地方自治團體與都道府縣知事協議成立、取得第十條第一項之許可。
原文	国又は地方公共団体が行う特定開発行為については、国又は地方公共団体と都道府県知事との協議が成立することをもって第十条第一項の許可を受けたものとみなす。

立法或修改理由 第 15 條規定，第 10 條之特定開發行為的行為主體，若屬國家或地方自治團體時之特別規定。鑑於國家或地方自治團體之公共性質，本條規定彼等公法人必須與都道府縣首長達成協議後視為取得第 10 條所稱許可。

說明與學說介紹 本條規範前述「視為取得許可」之效果、許可變更之程序以及得視為國家或地方自治團體之主體。

第十六條

中文	(許可或不許可之通知) 都道府縣知事接到第十條第一項之許可申請時，應即給以許可或不許可之處分。
----	--

	2 進行前項處分應以文書通知該當申請人。
原文	<p>都道府県知事は、第十条第一項の許可の申請があったときは、遅滞なく、許可又は不許可の処分をしなければならない。</p> <p>2 前項の処分をするには、文書をもって当該申請をした者に通知しなければならない。</p>

立法或修改理由 第16條之規定，係為確保行政運作之公正與透明之規範，第1項規定對於申請案件，不得遲延作成許可，第2項規定，許可或不許可處分，均應以文書之方式通知申請人。

說明與學說介紹 本條規定，都道府縣政府應規定許可或不許可之處理期間、作成許可或不許可處分之通知方式以及許可變更時之程序。

第十七條

中文	<p>（變更之許可等）</p> <p>取得第十條第一項之許可（含本項規定之許可。）者，應取得都道府縣知事許可，始得變更第十一條第一項第二款至第四款所列舉之事項。但變更後預定建築物之用途，非第十條第一項之限制用途，或依國土交通省令之規定屬輕微變更者，不在此限。</p> <p>2 申請前項許可，應填具載有國土交通省令所定事項之申請書，向都道府縣知事提出。</p> <p>3 取得第十條第一項之許可者，做成第一項但書所列變更時，應立即向都道府縣知事申報。</p>
----	---

	<p>4 第十二條、第十三條及前二條之規定，於第一項之許可準用之。</p> <p>5 第一項之許可以及依第三項規定所提申報，適用次條至第二十條之規定時，第一項許可以及依第三項規定提出申報之相關變更後內容，視為第十條第一項許可之內容。</p>
原文	<p>第十条第一項の許可(この項の規定による許可を含む。)を受けた者は、第十一条第一項第二号から第四号までに掲げる事項の変更をしようとする場合においては、都道府県知事の許可を受けなければならない。ただし、変更後の予定建築物の用途が第十条第一項の制限用途以外のものであるとき、又は国土交通省令で定める軽微な変更をしようとするときは、この限りでない。</p> <p>2 前項の許可を受けようとする者は、国土交通省令で定める事項を記載した申請書を都道府県知事に提出しなければならない。</p> <p>3 第十条第一項の許可を受けた者は、第一項ただし書に該当する変更をしたときは、遅滞なく、その旨を都道府県知事に届け出なければならない。</p> <p>4 第十二条、第十三条及び前二条の規定は、第一項の許可について準用する。</p> <p>5 第一項の許可又は第三項の規定による届出の場合における次条から第二十条までの規定の適用については、第一項の許可又は第三項の規定による届出に係る変更後の内容を第十条第一項の許可の内容とみなす。</p>

立法或修改理由 第 17 條規定，依據第 10 條第 1 項之規定取得

之許可，其內容之變更程序，並規定內容變更時，相關規定之適用關係。一般而言，若屬細部變更，只要與許可內容不失同一性，實則無須重覆申請許可。若非如此，則有再次申請許可之必要。本條另設變更許可內容之變更目的與方式作為特殊規範。

說明與學說介紹 本條規範許可內容變更之特殊情形、許可變更程序、申請變更之程序以及變更後內容之對應。

第十八條

中文	<p>（工程完工之檢查等）</p> <p>取得第十條第一項之許可者，應於該許可相關對策工程等完工時，依國土交通省令之規定，向都道府縣知事申報完工。</p> <p>2 都道府縣知事對於依前項規定提出之申報，應立即檢查其對策工程等是否符合第十二條政令所規定之技術基準；檢查結果認定對策工程等符合政令所規定之技術基準時，應將國土交通省令規定樣式之檢查完了證明，交付申報人。</p> <p>3 都道府縣知事依前項規定交付檢查完了證明後，應立即依國土交通省令規定，公告該對策工程等已完工。</p>
原文	<p>第十条第一項の許可を受けた者は、当該許可に係る対策工事等の全てを完了したときは、国土交通省令で定めるところにより、その旨を都道府県知事に届け出なければならない。</p> <p>2 都道府県知事は、前項の規定による届出があったときは、遅滞なく、当該対策工事等が第十二条の政令で定める</p>

	<p>技術的基準に適合しているかどうかについて検査し、その検査の結果当該対策工事等が当該政令で定める技術的基準に適合していると認めたときは、国土交通省令で定める様式の検査済証を当該届出をした者に交付しなければならない。</p> <p>3 都道府県知事は、前項の規定により検査済証を交付したときは、遅滞なく、国土交通省令で定めるところにより、当該対策工事等が完了した旨を公告しなければならない。</p>
--	--

立法或修改理由 第 18 條規定，特定開發行為所進行之工程，必須在完成時實施檢查，且必須檢附檢查完竣之證明並公告之，如此藉由動工前之許可以及工程進行之監督，以確保特定開發行為之安全性。

說明與學說介紹 本條規定工程完工時之申報程序、檢查完成證明之檢附、工程完成之公告等事項。

第十九條

中文	<p>（限制建築）</p> <p>取得第十條第一項許可之開發區域（限特別警戒區域內。）內土地，在前條第三項規定之公告前，不得興建第十條第一項限制用途之建築物。</p>
原文	<p>第十条第一項の許可を受けた開発区域(特別警戒区域内のものに限る。)内の土地においては、前条第三項の規定による公告があるまでの間は、第十条第一項の制限用途の建築物を建築してはならない。</p>

立法或修改理由 第 19 條規定，開發區域內之土地，於工程完工之檢查到公告之期間，禁止興建特定用途之建築物，以確保特定開發行為，得以如許可所預定之情形進行，進而確保開發地區免受土砂災害之威脅。

說明與學說介紹 本條規定開發區域內土地之建築限制。

第二十條

中文	(特定開發行為之廢止) 取得第十條第一項之許可者，於廢止許可相關對策工程等時，應立即依國土交通省令之規定，向都道府縣知事申報廢止之意旨。
原文	第十条第一項の許可を受けた者は、当該許可に係る対策工事等を廃止したときは、遅滞なく、国土交通省令で定めるところにより、その旨を都道府県知事に届け出なければならない。

立法或修改理由 第 20 規定，特定預定建築物，為防止土砂災害所施作之工程（對策工程），以及特定開發行為相關工程，其廢止應向都道府縣首長提出申報，以目的在於防止工程中斷，引發災害等情事發生於未然。

說明與學說介紹 本條規定明確規定特定建築物工程廢止時應申報之情形、申報書之格式以及罰則。

第二十一條

中文	<p>(監督處分)</p> <p>有下列各款情形之一者，都道府縣知事為防止特定預定建築物之土砂災害，得在必要限度內，廢止第十條第一項或第十七條第一項許可、變更許可之附款或命令停止工程及其他行為，或限期採取必要之措施。</p> <p>一 違反第十條第一項或第十七條第一項之規定，從事特定開發行為者。</p> <p>二 違反第十條第一項或第十七條第一項許可之附款者。</p> <p>三 於特別警戒區域內從事特定開發行為（特別警戒區域指定時，已動工者除外。），未依第十二條政令規定之技術基準，採取防止特定預定建築物土砂災害之必要措施，其相關工程之發包者或承包商（含承包工程之轉包商），或未依承包契約任意動工或已完成工程者。</p> <p>四 以詐欺及其他不正方法取得第十條第一項及第十七條第一項之許可者。</p> <p>2 都道府縣知事依前項規定，應命令相對人採取必要之措施，但無法確定相對人時，在無過失之情形下，得就相對人之負擔，自行實施措施，或由其所命令之人或委任之人實施。前述情形應訂於一定期間內完成，並於事前公告實施措施之必要性以及未能於期間內完成措施時，都道府縣知事或其所命令之人或委任之人得實施該措施。</p> <p>3 都道府縣知事依第一項規定做成命令時，應以設置標識或其他國土交通省令規定之方式，公告命令之意旨。</p> <p>4 前項標識得設置於第一項規定之命令其相關之土地、建築</p>
----	--

	<p>物或建築物之基地内；同項規定之命令其相關土地、建築物或建築物基地所有人、管理人或占有人，不得拒絕或妨礙該標識之設置。</p>
原文	<p>都道府県知事は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、特定予定建築物における土砂災害を防止するために必要な限度において、第十条第一項若しくは第十七条第一項の許可を取り消し、若しくはその許可に付した条件を変更し、又は工事その他の行為の停止を命じ、若しくは相当の期限を定めて必要な措置をとることを命じることができる。</p> <p>一 第十条第一項又は第十七条第一項の規定に違反して、特定開発行為をした者</p> <p>二 第十条第一項又は第十七条第一項の許可に付した条件に違反した者</p> <p>三 特別警戒区域で行われる又は行われた特定開発行為(当該特別警戒区域の指定の際当該特別警戒区域内において既に着手している行為を除く。)であって、特定予定建築物の土砂災害を防止するために必要な措置を第十二条の政令で定める技術的基準に従って講じていないものに関する工事の注文主若しくは請負人(請負工事の下請人を含む。)又は請負契約によらないで自らその工事をしている者若しくはした者</p> <p>四 詐欺その他不正な手段により第十条第一項又は第十七条第一項の許可を受けた者</p> <p>2 前項の規定により必要な措置をとることを命じようと</p>

	<p>する場合において、過失がなく、当該措置を命ずべき者を確知することができないときは、都道府県知事は、その者の負担において、当該措置を自ら行い、又はその命じた者若しくは委任した者にこれを行わせることができる。この場合においては、相当の期限を定めて、当該措置を行うべき旨及びその期限までに当該措置を行わないときは、都道府県知事又はその命じた者若しくは委任した者が当該措置を行う旨を、あらかじめ、公告しなければならない。</p> <p>3 都道府県知事は、第一項の規定による命令をした場合においては、標識の設置その他国土交通省令で定める方法により、その旨を公示しなければならない。</p> <p>4 前項の標識は、第一項の規定による命令に係る土地又は建築物若しくは建築物の敷地内に設置することができる。この場合においては、同項の規定による命令に係る土地又は建築物若しくは建築物の敷地の所有者、管理者又は占有者は、当該標識の設置を拒み、又は妨げてはならない。</p>
--	---

立法或修改理由 依土砂災害防制法對實施特定開發行為人所為之限制，係為防止警戒區域土砂災害發生所必要不可或缺之管制，對於違反或違法之行為，應及早排除，以達本法防制之目的。為此，本條規定都道府縣政府，對於違反或違法之行為人，得以進行必要之處分。都市計畫法之開發許可，亦設有相同之規定。

說明與學說介紹 本條規定裁罰之對象、變更許可之處理、簡易之代履行政程序以及罰則。

第二十二條

中文	<p>都道府縣知事或其所命令之人或委任之人，行使第十條第一項、第十七條第一項、第十八條第二項、第十九條或前條第一項規定之權限必要時得進入前述各規定之土地，檢查土地及土地上施作之對策工程等之狀況。</p> <p>2 第五條第五項之規定於前項之情形準用之。</p> <p>3 第一項規定得進入檢查之權限，不得做為搜查犯罪目的之解釋。</p>
原文	<p>都道府県知事又はその命じた者若しくは委任した者は、第十条第一項、第十七条第一項、第十八条第二項、第十九条又は前条第一項の規定による権限を行うため必要がある場合においては、当該土地に立ち入り、当該土地又は当該土地において行われている対策工事等の状況を検査することができる。</p> <p>2 第五条第五項の規定は、前項の場合について準用する。</p> <p>3 第一項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。</p>

立法或修改理由 為確保依本法作成之處分具有合法性與適當性，賦予都道府縣政府以及所屬公務員，得在特定情形之下，進入私有土地進行檢查。

說明與學說介紹 本條規定主管機關進入私有土地調查之權限與要件、準用本法第 5 條第 5 項之情形，以及罰則。

第二十三條

中文	<p>（報告之收集等）</p> <p>都道府縣知事得要求依第十條第一項或第十七條第一項規定取得許可之人，提出許可相關土地或許可相關對策工程等狀況之報告或資料，並得提出必要之建言或勸告以防止前述土地之土砂災害。</p>
原文	<p>都道府県知事は、第十条第一項又は第十七条第一項の許可を受けた者に対し、当該許可に係る土地若しくは当該許可に係る対策工事等の状況について報告若しくは資料の提出を求め、又は当該土地における土砂災害を防止するために必要な助言若しくは勧告をすることができる。</p>

立法或修改理由 都道府縣政府，得以要求特定開發行為之受許可人，提出土地或許可工程狀況之報告或相關資料，以確實掌握特定開發行為之最新狀況。在此前提之下，都道府縣政府得視情形，給予受許可人輔導勸告或課以監督處分，以防止土砂災害發生。

說明與學說介紹 本條規定都道府縣政府，要求特定開發行為之受許可人，提出報告或相關資料之事項，以及得以輔導勸告或課以監督處分之事項與範圍以及罰則。

第二十四條

中文	<p>（特別警戒區域內有居室建築物之結構耐力相關基準）</p> <p>為防制特別警戒區域發生土砂災害，依建築基準法第二十條</p>
----	---

	第一項發佈之政令應規定，一旦有居室之建築物結構，因受土砂災害發生原因之自然現象衝擊時，建築物仍能保持安全之建築物結構耐力相關基準。
原文	特別警戒区域における土砂災害の発生を防止するため、建築基準法第二十条第一項に基づく政令においては、居室を有する建築物の構造が当該土砂災害の発生原因となる自然現象により建築物に作用すると想定される衝撃に対して安全なものとなるよう建築物の構造耐力に関する基準を定めるものとする。

立法或修改理由 本條之立法目的在於，確保「特別警戒區域」內設有房間之建築物，能承受其所在地特別警戒區域內所公告之陡坡地崩塌自然現象，要求該等建築物，必須符合依建築基準法第 20 條第 1 項規定所發布之命令，達到該等命令要求之承受基準。

說明與學說介紹 本條規定建築物夠構造基準之適用範圍、應受規範之建築物的構造方法、釐清與災害危險區域之關係。

第二十五條

中文	（特別警戒區域內有居室建築物之建築基準法適用） 特別警戒區域（建築基準法第六條第一項第四款所規定區域除外。）內有居室之建築物（同項第一款至第三款列舉者除外。），視同都道府縣知事依同項第四款規定聽取關係市町村意見而進行指定的區域內建築物，適用同法第六條到第七
----	---

	條之五、第十八條、第八十九條、第九十一條及第九十三條之規定（含此等規定相關罰則。）。
原文	特別警戒区域(建築基準法第六條第一項第四号に規定する区域を除く。)内における居室を有する建築物(同項第一号から第三号までに掲げるものを除く。)については、同項第四号の規定に基づき都道府県知事が関係市町村の意見を聴いて指定する区域内における建築物とみなして、同法第六條から第七條の五まで、第十八條、第八十九條、第九十一條及び第九十三條の規定(これらの規定に係る罰則を含む。)を適用する。

立法或修改理由 為確保「特別警戒區域」內設有房間之建築物，符合特別構造基準，即使非屬「建築基準法」所稱有必要確認之建築物，也納入需特別確認之建築，由此立法旨趣以觀，應視為「建築基準法」上之「必要確認之建築物」，而有該法之適用。

說明與學說介紹 本條闡明本法為何設置「建築確認制度」之例外規定的目的與意義以及應適用何等「建築基準法」之相關規定。

第二十六條

中文	都道府縣知事認為有陡坡崩塌等發生之際，特別警戒區域內有居室之建築物已明顯發生損壞、嚴重危害居民等生命或身體之虞時，得勸告該當建築物所有人、管理人或占有人，採取搬離該當建築物及其他可防止或減輕土砂災害所必要的
----	---

	<p>措施。</p> <p>都道府縣知事依前項規定進行勸告之際，必要時應致力於斡旋被勸告者取得土地及其他必要之措施。</p>
原文	<p>都道府縣知事は、急傾斜地の崩壊等が発生した場合には特別警戒区域内に存する居室を有する建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれ大きいと認めるときは、当該建築物の所有者、管理者又は占有者に対し、当該建築物の移転その他土砂災害を防止し、又は軽減するために必要な措置をとることを勧告することができる。</p> <p>2 都道府縣知事は、前項の規定による勧告をした場合において、必要があると認めるときは、その勧告を受けた者に対し、土地の取得についてのあっせんその他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。</p>

立法或修改理由 「特別警戒區域」內新規之立地，應符合定開發行為之限制，以及設有房間之建築物構造耐力基準，以確保其安全。然而，特別警戒區域內舊有之建築物，若不適用相關規制，事實上並無法確保其安全。為此，本條賦予都道府縣政府權限，得以對建築物所有人、管理人，勸告其採取防災之必要措施。都道府縣政府為勸告認為必要時，得要求被勸告人採取支援措施。

說明與學說介紹 都道府縣政府於災害發生之際，有權發出勸告，要求人民採取必要措施。本條規定勸告之對象範圍、勸告主體，以及對疏散者採取之支

援措施。

第二十七條

中文	<p>都道府縣知事應根據基本方針將該當都道府縣區域分區，逐一設定預期可能造成土砂災害急迫危險的降雨量（以下本條中稱為「危險降雨量」。），在該當區域相關降雨量達到危險降雨量時，應通知相關市町村長並提供土砂災害相關警戒情報（次項中稱之為「土砂災害警戒情報」），以作為市町村長依災害對策基本法第六十條第一項，進行勸告或指示民眾立即撤離的判斷參考，並應採取必要措施，周知大眾。</p> <p>2 2 依前項通知或周知土砂災害警戒情報之必要措施，含清楚指出降雨量已達危險降雨量的地區（以下本項稱為「危險降雨量地區」。）以及周邊區域有發生土砂災害之虞者（含危險降雨量區域內已發生土石流者，以及土石流流動之影響圍內可能造成土砂災害的地區。）。）。。</p>
原文	<p>都道府県知事は、基本指針に基づき、当該都道府県の区域を分けて定める区域ごとに、土砂災害の急迫した危険が予想される降雨量(以下この条において「危険降雨量」という。)を設定し、当該区域に係る降雨量が危険降雨量に達したときは、災害対策基本法第六十条第一項の規定による避難のための立退きの勧告又は指示の判断に資するため、土砂災害の発生を警戒すべき旨の情報(次項において「土砂災害警戒情報」という。)を関係のある市町村の長に通知するとともに、一般に周知させるため必要な措置を講じなければならない。</p>

	<p>2 前項の規定による土砂災害警戒情報の通知及び周知のための必要な措置は、その区域に係る降雨量が危険降雨量に達した区域(以下この項において「危険降雨量区域」という。)のほか、その周辺の区域のうち土砂災害が発生するおそれがあると認められるもの(危険降雨量区域において土石流が発生した場合には、当該土石流が到達し、土砂災害が発生するおそれがあると認められる区域を含む。)を明らかにしてするものとする。</p>
--	--

立法或修改理由 土砂災害資訊，係由都道府縣與氣象局共同發表，以做為市町村長發布避難勸告時之判斷，於 2007 年全國實施至今。然而，根據國土交通省砂防部 2013 年之調查，日本全國雖然、有 1230 個指定土砂災害警戒區域之市町村，但於發布土砂災害警戒資訊時，據以發布避難勸告之市町村只有 4%，可見土砂災害警戒資訊並未充分活用。為此，2014 年修改本法，明確定義與定位土砂災害警戒資訊，並課以都道府縣政府通知市町村長與公告周知之義務。

說明與學說介紹 本條規定，都道府縣政府之權限與內容，包括設定危險降雨量之權限、土砂災害警戒資訊之提供、通知市町村長與公告周知之措施、土砂災害警戒資訊之公告範圍。

第二十八條

中文	都道府縣知事認為可能發生政令所認定之土石流、地滑或河
----	----------------------------

	<p>道閉塞導致河水溢流引發重大土砂災害之急迫危險時，應實施必要之調查（以下稱為「緊急調查」），以清楚掌握這類自然現象可能導致重大土砂災害的土地區域及時間點。但國土交通大臣依次條第一項規定實施之緊急調查時不在此限。</p> <p>2 2 都道府縣知事根據緊急調查結果與基本方針，認為前項重大土砂災害危險不存在或其危險非急迫時，得終止該當緊急調查。</p>
原文	<p>都道府県知事は、土石流、地滑り又は河道閉塞による湛水を発生原因とする重大な土砂災害の急迫した危険が予想されるものとして政令で定める状況があると認めるときは、基本指針に基づき、これらの自然現象を発生原因とする重大な土砂災害が想定される土地の区域及び時期を明らかにするため必要な調査(以下「緊急調査」という。)を行うものとする。ただし、次条第一項の規定により国土交通大臣が緊急調査を行う場合は、この限りでない。</p> <p>2 都道府県知事は、緊急調査の結果、基本指針に基づき、前項の重大な土砂災害の危険がないと認めるとき、又はその危険が急迫したものでないと認めるときは、当該緊急調査を終了することができる。</p>

立法或修改理由 災對法第 60 條規定，市町村長於特別必要時，得對其居民發布避難勸告。而為使市町村長得以充分執行其職務，掌握可能受災之區域與時期，相當重要。然而，資訊的變化甚巨，市町村長也無法掌握，因此，本法 2000 年修改後之本法規定，國土交通大臣應在緊急時進行緊急

調查，並將其結果提供市町村長之制度。

說明與學說介紹 本條規定實施緊急調查之要件、緊急調查之內容、預想重大土砂災害急迫危險之狀況以及緊急調查之中止。

第二十九條

中文	<p>國土交通大臣認為有前條第一項政令所定狀況，需進行該當土砂災害發生原因自然現象緊急調查，且有政令規定之需特別高度專門知識與技術時，應根據基本方針實施緊急調查。</p> <p>2 國土交通大臣依前項規定進行緊急調查，應先通知管轄該當土地區域的都道府縣知事。準備結束次項所準用依前條第二項規定實施的緊急調查。</p>
原文	<p>国土交通大臣は、前条第一項の政令で定める状況があると認める場合であって、当該土砂災害の発生原因である自然現象が緊急調査を行うために特に高度な専門的知識及び技術を要するものとして政令で定めるものであるときは、基本指針に基づき、緊急調査を行うものとする。</p> <p>2 国土交通大臣は、前項の規定により緊急調査を行おうとするときは、あらかじめ、緊急調査を行おうとする土地の区域を管轄する都道府県知事にその旨を通知しなければならない。次項において準用する前条第二項の規定により緊急調査を終了しようとするときも、同様とする。</p> <p>3 前条第二項の規定は、国土交通大臣が行う緊急調査について準用する。</p>

立法或修改理由 本條規定，第 28 條所規定須緊急調查之自然現

象，若須高度專門知識者，由國土交通大臣進行緊急調查。

說明與學說介紹 本條規定，國土交通大臣認為有本法第 28 條第 1 項之命令所規範之情形，而須進行土砂災害發生原因自然現象之緊急調查，且有政令規定之需特別高度專門知識與技術時，應根據基本方針實施緊急調查。國土交通大臣依前項規定進行緊急調查，應先通知管轄該當土地區域的都道府縣知事。

第三十條

中文	<p>都道府縣知事與國土交通大臣及其所任命或委任者進行緊急調查而有不得已之必要時，得在其必要範圍內進入他人所占有之土地，或短暫使用他人無特別用途之土地當作作業場。</p> <p>2 第五條（第一項及第四項除外。）規定準用於依前項規定的進入與暫時使用。此時同條第八項至第十項規定的「都道府縣」，應改為「都道府縣或國家」。</p>
原文	<p>都道府県知事若しくは国土交通大臣又はこれらの命じた者若しくは委任した者は、緊急調査のためにやむを得ない必要があるときは、これらの必要な限度において、他人の占有する土地に立ち入り、又は特別の用途のない他人の土地を作業場として一時使用することができる。</p> <p>2 第五条(第一項及び第四項を除く。)の規定は、前項の規定による立入り及び一時使用について準用する。この場合</p>

	<p>において、同条第八項から第十項までの規定中「都道府県」とあるのは、「都道府県又は国」と読み替えるものとする。</p>
--	---

立法或修改理由 本條規定，為進行緊急調查，主管機關有權進入有必要進入之土地，且有暫時之土地使用權。

說明與學說介紹 土砂災害風險升高之際，市町村長有權發布避難勸告，以達適時適當保護居民之目的，因此，國土交通大臣或都道府縣首長，即有必要通知市町村長土砂災害緊急資訊。為此，必須賦予中央與地方主管機關之公務員，有權得以直接進入現地調查、觀測，以具體掌握土砂流出所造成之地形變化。

第三十一條

中文	<p>都道府縣知事與國土交通大臣根據緊急調查結果與基本方針，認為發生第二十八條第一項所規定自然現象，一定土地區域內會有重大土砂災害急迫危險時，或該當評估會有土砂災害的土地區域或時期已明顯改變時，為了讓依災害對策基本法第六十條第一項及第六項所發布之避難勸告或避難指示有所參考，該當緊急調查所取得之評估可能發生土砂災害的土地區域及時期相關情報（次項中稱為「土砂災害緊急情報」。），都道府縣知事應通知相關市町村長，國土交通大臣應通知相關都道府縣知事及市町村長，同時做好周知一般民眾所必要之措施。</p> <p>2 都道府縣知事應致力於將土砂災害緊急情報以及緊急調查所取得之情報，隨時提供給予相關市町村長；國土交通大臣</p>
----	---

	則隨時提供給予相關都道府縣與市町村長。
原文	<p>都道府県知事又は国土交通大臣は、緊急調査の結果、基本指針に基づき、第二十八条第一項に規定する自然現象の発生により一定の土地の区域において重大な土砂災害の急迫した危険があると認めるとき、又は当該土砂災害が想定される土地の区域若しくは時期が明らかに変化したと認めるときは、災害対策基本法第六十条第一項及び第六項の規定による避難のための立退きの勧告又は指示の判断に資するため、当該緊急調査により得られた当該土砂災害が想定される土地の区域及び時期に関する情報(次項において「土砂災害緊急情報」という。)を、都道府県知事にあつては関係のある市町村の長に、国土交通大臣にあつては関係のある都道府県及び市町村の長に通知するとともに、一般に周知させるため必要な措置を講じなければならない。</p> <p>2 都道府県知事又は国土交通大臣は、土砂災害緊急情報のほか、緊急調査により得られた情報を、都道府県知事にあつては関係のある市町村の長に、国土交通大臣にあつては関係のある都道府県及び市町村の長に隨時提供するよう努めるものとする。</p>

立法或修改理由 災對法第 60 條雖規定，市町村長於特殊情形必要時，得對居民發布避難勸告。然而，該職權之行使，仍須有土砂災害緊急資訊作為判斷的依據，具體而言，避難路線、時間、場所、避難生活支援等等均屬需考量之事項，主管機關須有具體之資訊以為因應。因此，若土砂災害

發生之徵兆已經甚為明顯而須有緊急對策者，即應迅速實施緊急調查，具體掌握現場狀況，綜合整理為「土砂災害緊急資訊」提供市町村長參考。

說明與學說介紹 本條規範緊急調查實施之要件、土砂災害緊急資訊之內容以及明文規定，緊急調查所得資訊需隨時提供。

第三十二條

中文	市町村長欲解除依災害對策基本法第六十條第一項規定而實施的避難勸告或避難指示（限有發生土砂災害或有發生之虞時。）時，必要時得徵求國土交通大臣與都道府縣知事針對該當解除相關事項的建議。此時被求助的國土交通大臣或都道府縣知事，應提供必要之建議。
原文	市町村長は、災害対策基本法第六十条第一項の規定による避難のための立退きの勧告又は指示(土砂災害が発生し、又は発生するおそれがある場合におけるものに限る。)を解除しようとする場合において、必要があると認めるときは、国土交通大臣又は都道府県知事に対し、当該解除に関する事項について、助言を求めることができる。この場合において、助言を求められた国土交通大臣又は都道府県知事は、必要な助言をするものとする。

立法或修改理由 根據災對法第 61 條之 2 之規定，市町村長發布避難勸告時，得以徵求主管行政機關之首長、地方主管機關之首長或都道府縣首長之意見，

然而，避難勸告意見之解除，並無徵求意見之規定。為此，本法 2014 年修改時，將避難撤離指示之解除，列入得以徵求國土交通大臣與都道府縣首長意見之項目。

說明與學說介紹 本條規定，市町村長，得以徵求國土交通大臣與都道府縣首長意見，做為判斷是否解除避難撤離指示之參考。

第三十三條

中文	國家得依政令之規定，在預算範圍內補助都道府縣執行基礎調查所須部分費用。
原文	国は、都道府県に対し、予算の範囲内において、政令で定めるところにより、基礎調査に要する費用の一部を補助することができる。

立法或修改理由 基礎調查雖屬都道府縣之自治事項，但有鑑於其重要性及所需費用甚巨，因此，以本條文明定國家得補助部分費用，以確實落實土砂災害防制政策。

說明與學說介紹 本條規定國家得以補助都道府縣政府實施基礎調查之部分費用。

第三十四條

中文	國家及都道府縣，為促進第二十六條第一項規定之勸告實施建築物搬遷等得以順利進行，應致力於必要資金之確保、融通與斡旋。
----	---

原文	国及び都道府県は、第二十六条第一項の規定による勧告に基づく建築物の移転等が円滑に行われるために必要な資金の確保、融通又はそのあっせんに努めるものとする。
----	--

立法或修改理由 居民因國家或地方自治團體之勸告意見，移轉建築物或從事其他防止土砂災害發生之措施，所須經費或土地，國家或地方自治團體政府得介入補助與協助取得。

說明與學說介紹 本法規定，居民因國家或地方自治團體之勸告意見，移轉建築物或從事其他防止土砂災害發生之措施時，所須土地，都道府縣首長，有努力介入斡旋之義務。本條則是規定，國家或都道府縣政府對於居民之資金確保或貸款以及斡旋，負有努力之義務。

第三十五條

中文	國土交通大臣認為土砂災害已發生或有發生之虞時，得在認定為防止或減輕土砂災害且緊急必要情形下，給予都道府縣知事根據本法規定應辦事務及政令規定內容之相關必要指示。
原文	国土交通大臣は、土砂災害が発生し、又は発生するおそれがあると認められる場合において、土砂災害を防止し、又は軽減するため緊急の必要があると認められるときは、都道府県知事に対し、この法律の規定により都道府県知事が行う事務のうち政令で定めるものに関し、必要な指示をすることができる。

立法或修改理由	國家根據地方自治法之規定，得於法律所規定之特殊情形下，指示地方自治團體處理緊急地方事務。而此一指示，須有法律或命令為依據。觀諸本法之立法意旨，實與地方自治法前述規範之意旨相當，為此，本條文規定，國土交通大臣，於土砂災害發生或發生之虞且情形緊急必要時，得對都道府縣之首長，為必要之指示。
說明與學說介紹	本條規定，國土交通大臣於土砂災害發生或發生之虞且情形緊急必要時，得對都道府縣之首長，為必要之指示，並規定得指示之事項屬命令所設事項。

第三十六條

中文	國土交通大臣除了第三十一條第二項所規定事項之外，應提供都道府縣及市町村必要之建議、情報及其他援助，協助都道府縣及市町村適當順利地進行依第七條第一項規定實施的警戒區域指定，以及依第九條第一項規定實施的特別警戒區域指定及其他事務。
原文	国土交通大臣は、第三十一条第二項に規定するもののほか、第七条第一項の規定による警戒区域の指定及び第九条第一項の規定による特別警戒区域の指定その他この法律に基づく都道府県及び市町村が行う事務が適正かつ円滑に行われるよう、都道府県及び市町村に対する必要な助言、情報の提供その他の援助を行うよう努めなければならない。

立法或修改理由 本條文為 2014 年廣島市北部土砂災害發生後，新訂定的條文。過去根據本法，都道府縣政府有實施基礎調查、指定警戒區域等等法定自治事務之權限。2014 年前述廣島市北部土砂災害發生後，屢有檢討聲浪指出，國家對於前述自治事務實應予以援助，俾能使前述事項更順利進行，因而制定本條文。本條文規定，國土交通大臣，應努力提供都道府縣與市町村，必要之建言、資訊以及其他援助。

說明與學說介紹 本條規定，國土交通大臣應努力提供一般資訊給予地方自治團體。本條所稱資訊之提供，與第 31 條所規範，依緊急調查所得資訊之提供，不盡相同。

第三十七條

中文	本法所規定國土交通大臣之權限乃依國土交通省令規定，其部分權限得委任地方整備局長或北海道開發局長執行。
原文	この法律に規定する国土交通大臣の権限は、国土交通省令で定めるところにより、その一部を地方整備局長又は北海道開発局長に委任することができる。

立法或修改理由 為更為適當且順利推動土砂災害防制政策，以符合地方之需求，國土交通大臣得將其權限，委任予地方政府。

說明與學說介紹 本條規定，國土交通大臣得將其權限，委任給地發整備局長、北海道開發局長以及沖繩綜合

事務局長，並詳細規定具體得委任之權限。當然，所有權限亦得全部由國土交通大臣自行行使。

第三十八條

中文	有下列各款情形之一者，處一年以下拘役或五十萬日元以下罰金。 違反第十條第一項或第十七條第一項規定進行特定開發行為者違反第十九條規定興建第十條第一項限制用途之建築物者違反都道府縣知事依第二十一條第一項規定所發佈之命令者
原文	次の各号のいずれかに該当する者は、一年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。 一 第十条第一項又は第十七条第一項の規定に違反して、特定開発行為をした者 二 第十九条の規定に違反して、第十条第一項の制限用途の建築物を建築した者 三 第二十一条第一項の規定による都道府県知事の命令に違反した者

立法或修改理由 本法第 38 條到第 42 條為罰則之規定，規範違反本法規定之行為相關罰則。

說明與學說介紹 違反本法各管制規定之處罰規定。

第三十九條

中文	有下列各款情形之一者，處六月以下拘役三十萬日元以下罰
----	----------------------------

	<p>金。</p> <p>違反第五條第七項（含準用第三十條第二項準用之情形。）規定拒絕有關單位進入土地或暫時使用或妨礙使用者拒絕有關單位依第二十二條第一項規定進入檢查或妨礙或規避者</p>
原文	<p>次の各号のいずれかに該当する者は、六月以下の懲役又は三十万円以下の罰金に処する。</p> <p>一 第五条第七項(第三十条第二項において準用する場合を含む。)の規定に違反して、土地の立入り又は一時使用を拒み、又は妨げた者</p> <p>二 第二十二条第一項の規定による立入検査を拒み、妨げ、又は忌避した者</p>

立法或修改理由 本條為罰則規定。

說明與學說介紹 違反本法各禁止規定之處罰規定。

第四十條

中文	<p>依第二十三條規定要求提出報告或資料而不提出報告或資料，或提出虛偽報告或資料者，處二十萬日元以下罰金。</p>
原文	<p>第二十三条の規定による報告又は資料の提出を求められて、報告若しくは資料を提出せず、又は虚偽の報告若しくは資料の提出をした者は、二十万円以下の罰金に処する。</p>

立法或修改理由 本條為罰則規定。

說明與學說介紹 依本法之規定，應提出報告而不提出或提出虛偽報告者之處罰規定。

第四十一條

中文	法人代表、法人或自然人之代理人、使用人及其他從業人員，處理法人或自然人之業務或財產事項，違反前三條之行為規定者，除處罰行為人外，法人與自然人亦科以本條各項罰金刑。
原文	法人の代表者又は法人若しくは人の代理人、使用人その他の従業者が、その法人又は人の業務又は財産に関し、前三条の違反行為をしたときは、行為者を罰するほか、その法人又は人に対しても各本条の罰金刑を科する。

立法或修改理由 本條為罰則規定。

說明與學說介紹 處理法人或自然人之業務等事項，違反前三條之規定者，除處罰行為人外，法人與自然人亦科以罰金刑。

第四十二條

中文	違反第十四條第一項、第十七條第三項或第二十條規定不申報或為虛偽之申報者，處二十萬日元以下罰鍰。
原文	第十四条第一項、第十七条第三項又は第二十条の規定に違反して、届出をせず、又は虚偽の届出をした者は、二十万円以下の過料に処する。

立法或修改理由 本法為罰則規定。

說明與學說介紹 違反本法規定不履行申報義務或為虛偽申報之處罰規定。